



ボッチャ

ボッチャとは

ボッチャは、重度障がい者の競技スポーツへの参加を可能にするために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式競技です。2016年のリオデジャネイロパラリンピックでは5名の選手が出場し、日本は銀メダルを獲得しました！ 主として重度の脳性麻痺者および筋ジストロフィーや頸髄損傷のような四肢・体幹に重度の機能障がいがある方、つまり、日常の移動手段として電動車いすを利用している、もしくは自力での手動車いすの駆動能力が非常に低い方が対象のスポーツです。障害によりボールを投げることができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。

ルール



ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。

1人対1人で行う個人戦、2人対2人で行うペア戦、3人対3人で行うチーム戦があります。

カーリングに似たルールですが、目標となるジャックボールもボールが当たることで移動するので、そこが難しく、かつ面白いところでもあります。

クラス分け



	投げる	足蹴り	勾配具	介助者	説明
BC1	○	○	×	△ _{#1}	車いす操作不可で四肢・体幹に麻痺がある脳性麻痺者か、下肢で車いす操作可能な脳性麻痺者（足蹴りで競技） 個人の部とチームの部がある
BC2	○	×	×	×	上肢で車いす操作可能な脳性麻痺者 個人の部とチームの部がある
BC3	×	×	○	○	投球不可のため、介助者により勾配具（ランプ）を使用し競技する者（脳性麻痺以外の障害も含む） 個人の部とペアの部がある
BC4	○	○	×	△ _{#2}	BC1・2と同等の機能障害がある脳性麻痺以外の重度四肢麻痺者（頸髄損傷、筋ジストロフィーなど） 個人の部とペアの部がある

※1 必要な選手のみ部分介助 ※2 足蹴りの選手のみ

全クラス車いすを使用していることが条件です。国内では、BCクラスに該当しない選手も競技大会に参加できるよう、オープンクラス（車いすで競技するオープン座位の部、立位で競技するオープン立位の部の2クラス）を設けています。

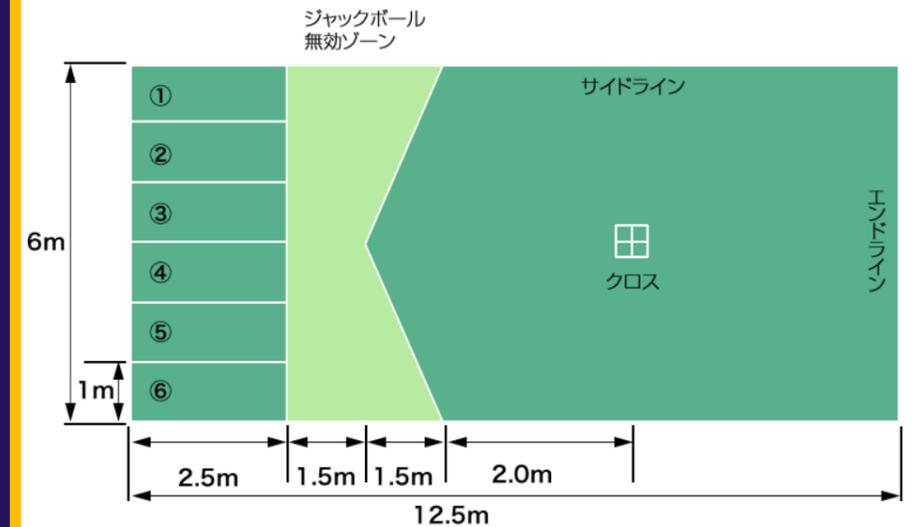
障がい者の競技スポーツでは、競技の公平性を図るために、必ずクラス分けが行われます。

脳性麻痺に代表される脳原性疾患を有する選手が多いボッチャでは、もともと国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会(CPISRA)のクラス分け(最重度のclass 1～軽度のclass 8の8クラス)が適用され、重度の四肢及び体幹に障がいがある class 1・class 2の選手のみが参加できます。

また、脳原性以外の病変で、class 1・class 2に相当する重度機能障がいがある選手も参加できます。そのなかで、選手は障がいの程度により BC1～BC4の4クラスに分類されます。

ボッチャのコートと用具

コートはバドミントンコートとほぼ同じ大きさです。



<ボール>

- 白いジャックボール1球と赤・青のカラーボールそれぞれ6球の計13球を使用（皮革製）
 - 重さ：275g±12g、周長：270mm±8mm。
- 柔らかさについてもチェックすることがあります。



<アシスティブデバイス>

ランプ

• BC3クラスの選手が使用する勾配具で、操作は競技アシスタントが行います。（競技アシスタントは、試合中に選手と会話したりボールの行方を見たりすることはできません）

リリーサー

• ボールをランプから転がすため、主に頭部に装着したり、口にくわえたりして使用します。



ポッチャのおもしろさ

誰でもできる！

1. 重度障がい者が参加できるパラリンピック競技で、自らボールを投げることができない選手も、ランプやリリーサーといったアシスティブデバイスを使用することで競技に参加することが可能。
2. 重度障がい者だけではなく、子どもから高齢者まで幅広く、どんな人でも楽しむことができるスポーツ。
3. 自らの意志で競技アシスタントに指示を出すという点においても、重度の障害がある選手たちの自立心を尊重したスポーツ。



一発逆転がある！

1. シンプルだが奥深い！
2. どこに転がすのか、近づけるのか、あるいは相手のボールを弾くのかなど、相手との駆け引き・戦術が必要！！
3. 最後の一球まで勝負がわからない！！



ポッチャ人口

平成27年度一般社団法人日本ポッチャ協会登録選手数
(都道府県別)



現在、一般社団法人日本ポッチャ協会に登録している選手はオープンクラスを含めて229名、そのうちパラリンピックの対象となるクラスに該当する選手は約150名です。また、地域によって競技人口に偏りがあります。

2020年東京パラリンピックで活躍できる選手を育成するためには、競技人口の拡大、若手選手の発掘・育成、選手の強化が急務です。



藤井寺支援学校
卒業生
日本ポッチャ協会強化指定選手
中村 拓海選手



BOCCIA

2017年度版



作成：藤井寺支援学校

協力：日本ポッチャ協会